

▼CNCP からのメッセージ

土木と市民社会をつなぐ実践活動にむけて
—新たな取り組みの視点—シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
土木学会/シビルNPO 推進小委員会 委員長
メトロ設計(株) 取締役

田中 努

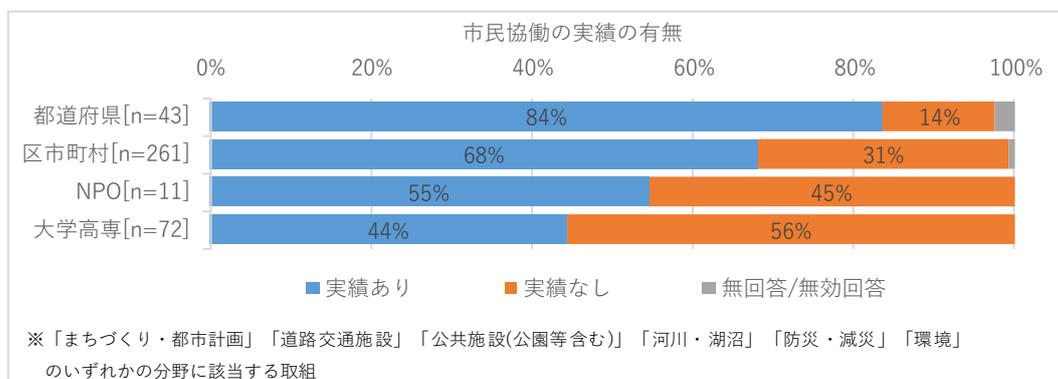


先月号で、山本代表から、「土木と市民社会をつなぐ」というテーマを今まで以上に明確にして、諸活動を組み立てて行きましょう。・・・まちづくりや河川改修に際して、市民協働・市民連携という形が生まれており、多くの事例が報告されていますが、土木への社会的な評価を変えるレベルにいたっていないのも事実です。・・・とありました。

今回は、「つなぐ」活動の概要と新たな取り組みの視点について、少し・・・。

■自治体の市民協働事業

CNCP の設立と併せて土木学会に設置された「シビルNPO 推進小委員会」では、市民に密接な土木の課題として「インフラメンテナンス」と「防災」を掲げ、自治体の「市民協働」の担当部署にディープインタビューを行い、それを踏まえ、2018年に、都道府県(47)・市区町村(1718)・NPO(430)・大学教員(2619)に対して、WEB アンケートを行いました。残念ながら、回答率は、都道府県58%、市区町村13%、NPO・大学3%ずつでしたが、全国の計250の組織・団体から476事例の回答がありました(資料1～2)。活動内容は、清掃活動やイベントから、地区の公共交通利用促進やバリアフリー化等の検討・協議、市のまちづくり協議会、県の景観形成に関する調査研究など、様々です。回答のあった自治体では毎年予算化して市民協働事業が行われていて、その事業に土木技術者が参画することは歓迎されることも分かりました。



市民協働への参加実績

これらは、市民協働事業として行われた事業ですが、その他、環境・都市・建設・水道などの部署でも、市民参画の事業は多数あるようです。特に、阪神淡路大震災・西日本豪雨災害・東日本大震災をはじめ、広域災害の復旧・復興・まちづくりでは、行政だけでは対応不足となり、市民参画の動きが広がっています。総務省の「市民との協働によるまちづくり」のサイトでは200の施策事例が紹介されています。

■学会・協会の「土木と市民社会をつなぐ」活動

土木学会では、2015年度に、土木広報センターと土木広報戦略会議を設置し、土木学会の外の「産官学民」の意見を取り入れながら、学会の委員会活動の広報の他、市民向けの双方向コミュニケーションに取り組んでいます(資料3)。例えば、土木の日・未来の土木コンテスト・市民普請大賞・土木コレクション・どぼくカフェ・ドボクのラジオ(ドボラジ)・インフラ動画解説など(資料4)。また、社会イ

ンフラと市民をつなぐ活動をしている 16 の NPO 等と「インフラパートナーシップ」を締結し、相互の連携・協働の機会を創出しています。さらに、土木史の入門資料となる「土木偉人かるた」、防災・減災を楽しみながら学ぶ「ポケドボ」カードゲーム、土木用語を集めた「土木かるた」など、子どもや家族向けのアイテムも・・・。

建設コンサルタンツ協会では、土木ツアーNAVI・土木遺産・キッズ向け建設コンサルタントのお仕事紹介や、広報戦略委員会の「土木落語」＜資料5＞など、市民とつながる活動に取り組んでいます。

日本建設業連合会では、「けんせつ小町」工事チームの紹介や全国の小町が集まるサミット、俳優の高橋克典が特派員として現場取材する YouTube「けんせつのチカラ」、2017年に参加者が300万人を超えてさらに継続している「市民現場見学会」など、会員企業と共に取り組んでいます。

■「つなぐ」新たな取り組みの視点

上記の他、CNCP 通信の2020年11月号から「今月の土木」と「フレンズコーナー」に参加していただいている方々や、国・自治体・大学・交通系事業者・学協会の委員会・NPO・各企業など、多くの組織・団体が、「土木と市民社会をつなぐ」活動に取り組んでいます。

さて、これ以上、何をしましょうか？

物事の多くは、「質×量」で、基本的な側面を捉えることができます。

まず「量」の話。例えば、日本建設業連合会の「市民現場見学会」が500万人に達しても、日本の人口の4%でしかないのです。また、コロナ前には「出前授業」が全国で行われていましたが、学校と教育委員会と協議して決まって実施できるのが年に1～2教室でしょうか。それに対し、小学校の例えば5年生は、全国で何教室あるのでしょうか。今実施している方々に「もっと頑張ってください」とはならないでしょう。仲間を増やしましょう。先人のノウハウやツールをつないで共有できたら、ゼロから立ち上げるよりどれだけ容易なことか、さらにアドバイスが貰えたら・・・。

次に「質」の話。つなぎたい人・ひろげたい人により、求めるもの・ことが違いますね。

ダムカードやマンホールの蓋、ダム汁や地下宮殿（首都圏外郭放水路）、橋やトンネルが好きな人・・・。自分のまちの公園・道路・橋・河川をきれいに維持したい人・・・。自分たちの町のまちづくりを、行政任せにせず一緒に考えたい人・・・。

例えば、後者の場合。行政の計画がすべてが決まってから、住民説明会で知らされて、パブリックコメントを求められても、住民として受け入れられない物は反対するしかありません。最初から、情報を共有しつつ一緒に考えれば、理解し意見が反映されることが増え、無用な揉め事は減るのではないのでしょうか。今や、最初の段階から市民を組み込んで事業を進める事例は増えているようですが、全国1718の市区町村で進める全事業の内、どれだけで行われているのでしょうか。（「量」の話も含め）

また、「市民科学/シチズンサイエンス」という言葉があります。「一般市民によって行われる科学的活動。しばしば職業科学者や研究機関との協調により、もしくはその指導の下で行われる（Wikipedia）」という意味のようです。まちづくりや社会資本整備に対して、市民を巻き込んで、（科学的）工学的に論理的に勉強して行く「市民工学」という概念・行動を勉強して、取り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。その結果の提言は、きっと説得力を持つでしょう。

これから、こんな風な視点で、さらに新たな「つなぐ」活動を目指して、皆さんと考えて行きたいと思います。



「土木」と「落語」の異色コラボが遂に実現！
人々と土木の深いつながりを伝える新作落語を動画配信

資料1：土木インフラ・まちづくりにおける市民協働に関するアンケート調査報告書（概要版）、平成30年6月、シビルNPO推進小委員会 <https://committees.jsce.or.jp/education14/node/33>

資料2：委員会報告「市民と協働、土木専門家への期待」、土木学会誌 Vol.103, No.12, December 2018

資料3：<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/system/files/soshiki191003.pdf>

資料4：<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/taxonomy/term/8>

資料5：土木落語 <https://youtu.be/TpHAtzDx400> & CNCP 通信 VOL.86/2021.6.5